

1 題材名 買い物

2 題材について

(1) 題材観

特別支援学校の小学部・中学部学習指導要領、数学科の目標に、「日常生活に必要な数量や図形などに関する初歩的な事柄についての理解を深め、それらを扱う能力と態度を育てる。」とあり、各教科の具体的内容の5段階には、「金銭に関する実務が分かり、生活の中で使う。」とある。

金銭処理は日常生活の中で欠かせない重要な部分である。将来、社会人として職業人として自立して生きていくためには、興味・関心だけでなく、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図らなくてはならない。買い物学習には、自動販売機の使い方、小遣い帳の使い方、貯金の方法や領収書の扱い方、買い方やお金の計算など、生活する上で必要な金銭に関連する内容がたくさん含まれている。今スーパーでは、買いたい物をレジに運び、大きな金額を出せば黙っていてもおつりがもらえる。しかし、それではよりよい豊かな生活を営むことにはならない。

学級の生徒達は、買いたい物の定価どおり正しく代金を支払うことができる。両替もでき、複数買った時の代金もおつりも、おおよそ計算で求めることができるようになった。そこで、本題材では、「割合」の学習を取り入れ、割引で買える代金がおおよそいくらかを計算で求めることを中心に進めていきたい。そして、日常よく目にする広告紙や大安売りの機会に、賢い買い物ができるようにしていきたい。金銭を大切に扱ったり節約した金銭の使い方を覚えたり、買い物を楽しみながら生活の幅を大きく広げられるようにしていきたい。

それには、机上の学習や買い物の疑似体験からできるだけ実際の場面へとつなげ、実践力を身に付けさせたいと考える。

(2) 指導内容の系統

1 学期		本時	2～3 学期
買い物	分数	買い物	買い物
○複数の品物を 買った時の合 計金額	○たし算・引き 算	○割合 割合の意味 1割・2割・3割	○百分率 パーセントの意味 10%・20%・30%
○紙幣で支払っ た時のおつり	○かけ算	2割引の買い物	20%引の買い物

(3)生徒の実態

	日常生活・数学科の様子	数学科のアンケート結果（7月28日 実施）
		<ul style="list-style-type: none"> ・数学が好きになった。解き方にいろいろな方法があることが分かっておもしろいから。 ・発表する時の説明は、慣れた。もっと上手になりたい。 ・出納簿の付け方・金銭処理ができる。 ・分数の計算は、
		<ul style="list-style-type: none"> ・数学が好きになった。おもしろい。説明が分かりやすい。できるようになった。 ・発表する時の説明は、慣れた。もっと上手になりたい。 ・出納簿の使い方・金銭処理ができる。 ・1068円の買い物で2000円出すと、$1068 - 2000 = 942$ ・分数の計算は、
		<ul style="list-style-type: none"> ・数学は好き。分かりやすい説明だから。 ・発表する時の説明は上手にできる。前より上手になっていると自分で感じる。 ・出納簿の使い方・金銭処理ができる。 ・1個65円のみかん3個で $65 + 65 = 130$, $130 + 65 = 195$ ・分数の計算は、 たし算・ひき算・かけ算がほとんどミスなくできる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・数学は、好きでも嫌いでもない。計算はできるが、分からないのがあるから。 ・発表する時の説明は、慣れてきた。 ・出納簿の使い方・金銭処理はできる。 ・1068円の買い物で2000円出したおつりは $2000 - 1068 = 1002$ ・分数の計算は、
		<ul style="list-style-type: none"> ・数学が好きになった。分かるようになったから。 ・発表は慣れない。説明は役に立っている。もっと上手くなりたい。 ・分数の計算は、

ほとんどの生徒が数学が好きである。集中して取り組むことが苦手な生徒が真剣に問題解決に当たる姿や、ぎこちない言葉ではあるが一生懸命に発表する姿がどんどん見られるようになってきている。それは、視覚的な資料や操作しながら取り組める補助道具を用いて進めてきたことが大きいと思われる。また、既習事項を使って答えの導き方を自分で考えるように練習してきたことも理由の一つと考えられる。

割合の考え方に必要な分数の学習も、アンケートからおおよそ理解し、計算もできていると思われる。パターン化された計算練習は得意であり、割引の代金を計算することも、既習の分数計算から容易にできるものと思われる。

そこで、賢い買い物をするために、定価の何割引・何%引の代金を計算で求められるようにし、よりよい生活スタイルの形成を図っていきたい。

3 目標

- (1) 金銭の節約した計画的な使い方を知り、金銭出納簿をつけることができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 関係図や線分図を用いて割合の意味を説明することができる (数学的な考え方)
- (3) 定価に対する割合の求め方を知り、計算で求めることができる。 (技能)
- (4) おおよその代金を計算しながら買い物をすることができる。 (知識・理解)

4 指導計画 (13時間扱い)

- (1) 節約したお金の使い方(金銭出納簿の使い方) 3時間
- (2) 割合の求め方 (割合の意味や分数との関係, 計算の仕方) 3時間
- (3) 割引の求め方 (おおよその代金の求め方) 4時間(本時1/4)
- (4) 買い物体験 (疑似体験・実践) 3時間

5 本時の指導

- (1) 目標
定価の割引代金を計算で求めることができる。 (技能)
- (2) 研究との関連

- (1) 身近な日常生活に関連付けたり、補助具を操作したり、動作化したりしながら導入すれば、思考のヒントになり問題解決がしやすいだろう。
- (2) 基礎・基本事項の効果的な反復練習をすれば、重要ポイントが身に付くであろう。

生徒は、パターン化された課題は分かりやすく、一度やり方を覚えると学習が楽しくなり、できた喜びから自信を持つようになる。そして自主的に学習しようとする意欲も出てくる。

しかし、思考を伴う課題は苦手である。そこで、割引の代金が全体のどのくらいなのか、視覚的に模擬千円札を手がかりに進めていきたい。そして、「4割引とは6割の代金を支払うこと」を意識して考えられるようにしていきたい。

また、割引の代金を求める手順を覚えたら繰り返し練習し、おおよその代金を速く求められるようにし、実践に結びつくような学習にしたい。

(4)板書計画

<p>買い物</p>	<p>学習問題</p>	<p>2000 円</p>
<p>ウォーミングアップ 復習</p>	<p>A 店 4 割引</p>	<p>B 店 半額</p>
<p>(1)985 円の 2 割は およそ 1000 ×</p>	<p>C 店 500 円引</p>	 <p>割引 支払い</p>
	<p>2000 円の 4 割引は、いくらに なるだろうか。</p>	<p>4 割引とは、6 割支払う ことであるから 2000 ×</p>